

総務委員会の行政調査

平成23年10月17日から10月19日までの3日間、京都府京丹後市においてバイオマスの推進及び風力エネルギー普及モデル事業についてと舞鶴市における原子力防災に関して先進地調査を行いました。

【京丹後市】

京丹後市は、京都府北部の丹後半島に位置し、沿岸部は山陰海岸国立公園、若狭湾国定公園に指定され、内陸部には標高400から600メートルの山々が連なります。

リアス式海岸の良好な湾や入江を通して、古代から大陸や朝鮮半島と活発な交流が行われ、中国貨幣や日本最古の紀年銘鏡などの遺物、遺跡が多く発見され独自の経済文化圏の形成がうかがわれます。近世には回船業や丹後ちりめんの生産がまちの産業を支え、今日は機械金属工業や観光産業がまちの発展を担いつつあります。平成16年4月に6町が合併し、人口約6万800人を有します。

【調査概要】

バイオマスの推進ではエコエネルギーセンターを視察しました。生ゴミや食品系未利用資源などが一日24

から64トンが持ち込まれ、それを発酵させて一日5千立方メートルのバイオガスを抽出し、そのガスを燃料に最大で400キロワットの電気が発電されます。施設内で使用した後の余剰分は電力会社に売電され、発酵残液1千200トンは液肥として近隣の農地へ還元し、環境に優しい安全安心な農産物が生産されています。農業の振興を図りつつ資源の循環に取り組まれていました。

うみかぜ風力エネルギー普及モデル事業については、1.0から1.8キロワットの小型風力発電機システムが35台導入され、個人住宅に設置されている発電機を調査しました。定格出力1.0キロワットでも最大3.0キロワットの発電ができます。設置費は、環境省、京都府及び市の事業により2分の1程度の負担で済むように補助がなされていました。現在の売電価格は太陽光発電に比べて低価格ですが、再生可能エネルギーの全量買取制度が導入されれば、風力発電の普及にも拍車がかかるものと期待できます。

東日本大震災後、新エネルギーへの取り組みが注目されるなかで、この調査は大変参考となるものでした。

【舞鶴市】

舞鶴市は、京都府北部に位置し、北側は若狭湾に面します。湾内の舞鶴湾は古来から天然の良港として栄えてきました。昭和18年、田辺藩の城下町として発展してきた舞鶴市と旧海軍の鎮守府設置を契機として発展してきた東舞鶴市が合併し、さらに昭和32年には加佐町を編入し、現在の舞鶴市となり人口約8万8千人を有します。海岸線一帯は、若狭湾国定公園に指定された景勝地で、海水浴場や釣場などがあるほか五老岳からの眺望は近畿百景第一位にも選ばれ、大勢の観光客が訪れます。

【調査概要】

隣接市には原子力発電所が立地しており、同市の原子力防災対策について調査しました。

舞鶴市は、従来の地域防災計画原子力発電所防災計画編とは別に高浜及び大飯原子力発電所の事故を想定した避難計画を中心とする暫定計画の策定に取り組み、8月にプロジェクトチームを立ち上げ、課題の洗い出しが行われていました。避難計画は、避難が広域的かつ長期的になることが予想されることから、自治会や学区などの地域コミュニティを単位とした避難を念頭においた検討を進めています。20キロメートル圏外への避難が必要な事態となっ

た場合は、市外へ避難する必要があります。京都府と連携して避難計画を様々な想定の中で検討されてきました。避難者とともに市の行政機能の維持に関する暫定計画の策定が本年度内をめどに進められています。

本市においても、避難行動計画、地域防災計画の策定に向けて、舞鶴市のような類似自治体を参考にし、最重要課題として日頃の訓練等も併せて取り組んでいくべきと強く感じました。



個人住宅設置の風力発電【京丹後市】